

平成 29 年 4 月 7 日

「平成 29 年度 第 64 回入学式」[29 年 4 月 7 日]に参加して

同窓会渉外担当副会長

本日、平成 29 年 4 月 7 日[金]午前 10 時～11 時 5 分]入学式に 8 期 K さんと 1 期 O の 2 名で出席しました。校庭は、桜満開の中での入学式でした。入学式に先立ち、ガイダンス・ルームで弓田校長から 29 年度新入生は 38 名でした。残念ながら、2 日前に都の基準で 2 クラスは駄目との連絡がありました。最終的に、実務上 2 学級の運営で考えて良いことになりました。

PTA 新会長の高橋 智人氏が紹介されました。

[平成 29 年度第 64 回入学式] 呼名され 38 名の入学が認証されました。

#### 1. 弓田校長式辞

○今年限りの命であることを知っているかのごとく、十中の桜たちは、これまでにない濃い輝きを放っています。

○新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは、中学校生活に期待と不安を抱き、この入学式に臨んでいると思いますが、安心してください。

十中では、皆さんが充実した中学生生活を送れるよう、先生が熱心で丁寧な支援をしていきます、また。上級生は、学校行事や生徒会活動、部活動などを皆さんと一緒にいき、色々のことを優しく教えてくれます。

一刻も早く学校生活に慣れ、十中生として自覚と誇りを持てる中学生になって下さい。

○ 私は、春休みに東海地方の城めぐりをして参りました。駿府城、浜松城、岡崎城など、江戸幕府を開いた徳川家康が住んでいた城もありました。家康は、3 歳の時に母親と生き別れ、8 歳で父親を亡くし、19 歳までの 12 年間、駿府[静岡市]で今川義元という大名の人質として暮らすなど、苦勞の人生を歩んでいました。

山岡壮八の歴史小説「徳川家康」にはこんな場面が出てきます。

8 歳の家康を人質として迎えた今川義元は、家来に命じます。

「むごく育てよ」と。しばらくして、義元が家来に聞くと、家来は得意げに言います。「ご命令通り、むごく育てています。食事は粗末のものしか与えず、朝は暗いうちに叩き起こし、剣術の稽古と称して木刀で打ちのめしています。ですから、夜には、体中が、腫れ上がって、足腰も立たないほど疲れ切っています。」話を聞いて、義元は家来をしっかりとつけます。

「そうではない。うまいものをたらふく食べせろ。欲しがる物は何でも与えよ。寝たいだけ寝かせろ。剣術等もつてのほか。とにかく楽な生活をさせよ。

それでたいがいの子どもは駄目になる。それが、むごく育てるということだ。」

- 義元は、家康が立派な武将になることを恐れ、楽をさせ、苦勞をさせないことで、軟弱な人間に育てようとしたのです。しかし、家康は、楽で苦勞をしない生き方をせず、自ら厳しい道を選択します、そして、**40** 数年後、関ヶ原の合戦に勝利して、全国支配を成し遂げ、**265** 年間続く江戸幕府の礎を築くことになるのです。
- 皆さんは、家康のように厳しい道を選択する必要はありません。なぜなら、中学校生活は楽しい事や感動的な事が沢山ありますが、一方で、多くの苦勞・困難もあります。授業内容は、難しく、定期テストもあります。**3** 年では、高校受験もあります、どれも、避けて通ることはできません。
- 皆さんに望むことは、苦勞・困難に立ち向かい、乗り越える努力をすることです。努力する人には、成長が約束されます。
- **1** 年後、旧三中の校舎へ移動を覚悟の上で「十中最後の入学生」を選択した皆さんであれば、これからのさまざまな苦難に対して逃げずに、立ち向かうものと思います、十中では、皆さんが一步一步、中学校生活を歩み、一段、一段、希望への階段を登り、輝ける **3** 年間を過ごすことができるよう、上級生も先生方も一諸に頑張ります。
- さて、保護者の皆さま。お子様のご入学おめでとうございます。学校再編を見越し、他校への指定変更が多く行われる中、ゆるぎない信念をもって本校を選択してくださったことを、有難く思っています。
- 話を徳川家康に戻しますと、家康は人質時代。駿府を流れる安倍川で、子供たちが川を挟んで。東軍・西軍に分かれて、石を投げあう「石合戦」を家臣と見物します。東軍 **150** 人に対して西軍は倍の **300** 人です。家臣は、「大人数の西軍が勝つと予言しますが、家康は「少人数の東軍が勝つ」と断言します。結果は、少人数の東軍が勝ちました。
- 驚いた家臣が、「なぜ少ない東軍が勝つとわかったのですか。？」と聞くと家康は、「多い方は、自分たちが勝つという慢心があり、心をついできていない。」しかし、東軍は、数が少ないために、全員が結束して、一発必中の覚悟で石を投げる。だから、少ない方が勝つと思った。」と答えたそうです。

- 新入生は **38** 名という少人数ですが、大人数の集団に引けを取らない。  
たくましく優れた集団となるよう、「むごく育てる」ことをせず、教職員が総力を挙げて、指導・支援に努めて参ります。  
どうか、本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。
- 最後になりますが、ご来賓の皆様には、お忙しい中、入学式にご臨席を賜りましたことに感謝申し上げます、
- 本校は今年限りで閉校となりますが、閉校の瞬間まで、発展し続け、**64** 年の歴史に燦然と輝くラストイヤーとなるよう、教職員が一丸となって教育活動を実施して参ります。  
どうか、最後までお力添えを賜りますようお願い申し上げます、式辞といたします。

2. 中野区教育委員会祝辞[代読] 一省略

3. PTA 新会長祝辞 高橋智人氏 一省略

4. 学級数・生徒数[平成 29 年 4 月 7 日現在]

	学級数	男子	女子	合計
1 年	1	20	18	38
2 年	2	29	28	57
3 年	2	41	31	72
計	5	90	77	167

以 上